

【EAST-all】の皆様

リヒテルズさんの講演でもっとも考えさせられたのが、意識の改革における「パタナリズム（庇護主義）」から「インクルージョン（自立支援）」への転換を、オランダでは低学年からの教育の中で「自己表現・自己主張の訓練」と言う形で実践しているとのこと。また、このことがオランダで制度化された「安楽死」や「ワークシェアリング」などにつながっているとのことでした。

日本では今、単身世帯の増加や複合的な課題を抱えた世帯の急増などの中で、世帯が抱える問題が深刻化してから顕在化することで、地域での福祉活動で対応するには困難となることが多いなどの実情の中で、早期の段階での課題発見が効果的と考えられる中で、「自分のできない部分をできる人に言える」ことも自立の概念に入るといふ言葉が、社会福祉協議会で進めようとしている「自助教育」という概念に近いと改めて感じました。

「自助教育」とは、地域における個人情報の取り扱いの中で活動の対象となる人自身が、自分の個人情報を地域で「助け合い」、「支え合い」の活動される方々に対して困ったときや困ることを想定して開示できるかどうか。ややもすると一方的な支援の受け手として「客体」に収まりがちな要支援者が、自分の意思で福祉の「主体」としての立場を取り戻すための意識改革と言えます。その中で自分のニーズを把握することと、声を上げやすい地域づくりが必要と考えています。

講演が終わった後、リヒテルズさんにオランダと異なり、低学年児にそのような教育が実践されているとは言えない日本において、成年になった後の「自助教育」の効果を上げるための秘策はありませんかと質問させていただきました。少し、考えられて「選択肢」を増やすことではないかとのことのお答えでした。確かに自己選択、自己決定を促すためには、選ぶべきものが複数あることは必然だと思いました。地域の「支え合い」、「助け合い」の活動も選択肢を増やす取り組みであり、「自助教育」とともに多職種連携がさらに地域活動とつながったときに「インクルージョン（自立支援）」が日本でも大きく広がるのではないかと強く感じた一日でした。このような機会をいただき、ありがとうございました。長文になり申し訳ありません。

参考に社協で作成している「孤立死防止パンフレット」を添付させていただきます。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

社会福祉法人

福岡市東区社会福祉協議会

事務局長 内 満(うち みつる)